

学部長インタビュー

家政学部の魅力って何？

日本女子大学 家政学部長 石川孝重



(いしかわ たかしげ)東京理科大学工学部建築学科卒業。同大学院理工学研究科建築学専攻博士課程修了。工学博士。日本女子大学家政学部住居学科講師、助教授、プリティッシュコロンビア大学建築学科客員助教授を経て1996年日本女子大学家政学部住居学科教授。2011年家政学部長に就任。前任の生涯学習センター長時代に、卒業生、一般市民向けのeラーニングシステムを構築、安全・感性工学の専門家として小学校段階からの防災教育に関わるほか、建築家の社会的責任を重視する「建築社会学」の普及を目指している。2009年日本建築学会教育賞、2011年日本建築学会賞、受賞。

インタビュー・文/古矢明雄(本誌)

学部長インタビュー
家政学部の魅力って何？

日常の生活の中で起こる様々な問題を 実践的・総合的に探ることで 豊かな人間生活と人類の福祉に貢献する

困難な時代だからこそ 輝きを増す家政学

家政学は、人間が家庭生活や社会生活を営む上で起こる様々な問題を、自然科学的、人文科学的、社会的に探求し、そこで得られた知見を科学的に理論化し、それを実生活に応用することにより、人間生活をより豊かで合理的なものとし、広く人類の福祉に貢献することを目的とした実践的総合科学です。

私たちは、長い歴史を通して人間としての豊かさや幸福を追求してきたわけですが、昨年3

月に起きた東日本大震災は、豊かさや幸福に関する私たちの価値観を大きく揺るがせ、私たちの生き方や考え方を根底から問い直す結果となりました。

生活や暮らしの中から、人間が人間らしく生きる道を探る家政学は、こういう時代だからこそ、ますます重要性を増していくと考えられます。

家政学の総合性について 理解を深める学部共通科目

私たちの学部は、1901年に日本初の女子の

ための高等教育機関として創立された日本女子大学の伝統ある学部です。日本女子大学が新制日本女子大学となった1948年に日本の大学初の家政学部となり、翌年、日本家政学会が発足するなど、科学としての家政学の実用性は、まさに私たちの学部の先輩たちが切り拓いてきたものです。

私たちの学部には、児童学科、食物学科(食物学専攻・管理栄養士専攻)、住居学科(居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻)、被服学科、家政経済学科という、人間の生活・暮らしに関わるすべての分野が網羅されています。

これらを実践的・総合的に学ぶことで、現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し解決する力、生活そのものの持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献できる力を養うことが私たちの学部の目標です。

こうした力を養うために設けられているのが、「家政学部共通科目」です。この科目群では、必修科目として「家政学概論」と「人間と生活」を置き、選択科目として「生活と児童」「生活と住居」「生活と衣服」など、専攻する学科以外の科目を広く学ぶことができます。

これらのうち「人間と生活」は、年度ごとにテーマを設定し、それを全学科の教員がオムニバ



さくらナースリーでのフィールドワーク(児童学科)

スで講義する科目です。1996年に「子ども」をテーマに開講して以来、17年続く科目で、本年は「防災」をテーマに15回にわたって講義が展開されています。

災害情報、リスクなど防災に関する最新情報、防災・復興とその支援についての事例を学ぶことで、災害時に自分の身を守る原則を知り、防災のあり方や社会と個人の取り組みなどについて、各自の専門分野から理解を深めるのが目標ですが、同時に、総合的に生活をとらえる視点と力量を身につけてもらうことも目指しています。

こうした学部共通科目に加え、目白キャンパスにある3学部(家政、文、理)共通科目として、外国語や情報処理などの基礎科目、教養科目、さらに全学部共通のキャリア形成科目が設置され、幅広い学びを保障していることが私たちの学部の特色です。

児童、食物、住居、被服、家政経済の5学科構成

私たちの学部には、児童、食物、住居、被服、家政経済の5学科があります。

児童学科は、子どもについて心理、教育、健康、文化、社会など5つの領域から研究し、幼稚園、小学校教諭、中高の家庭科教員など、保育・教育のスペシャリストを養成する学科です。

学内の保育施設「さくらナースリー」に出かけたり、文京区内の小学校でTAをしたりするなどフィールドワークを重視しているのが特色です。卒業生の約4割が教員になりますが、企業などで活躍している人も数多くいます。

食物学科は、「食」全般に関わる知識と技術を学ぶことで総合的な「食」のスペシャリストを養成する食物学専攻と、健康を栄養という側面からサポートする管理栄養士を養成する管理栄養士専攻の2専攻からなっています。

食物学専攻は、食物の機能・安全、食生活の

あり方を講義・実験・実習を通して学び、食品開発・研究や食のデザイン・演出ができる人材を養成しています。また、管理栄養士専攻では、食品学、調理学、栄養学に加え、疾病予防のための医学・保健科目を学ぶことで責任ある医療職の一員となるための資質を養っています。食物学専攻では卒業生の約8割が企業で働き、管理栄養士専攻では、約3割が管理栄養士として働いています。

住居学科は、生活空間のデザインを学ぶ居住環境デザイン専攻と、住居から都市までのデザインを学ぶ建築デザイン専攻の2つの専攻からなっています。

居住環境デザイン専攻では、建築士のほかインテリアコーディネーターや福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーターなどを、建築デザイン専攻では、建築士(一級・二級)などを養成します。いずれの専攻も卒業生の約2割が設計の専門職として就職し、建築デザイン専攻では約3割が大学院に進学します。

被服学科は、衣服の素材、デザイン・生産、取り扱い・着心地などの性能分析、流通・消費者問題などを幅広く学ぶことで「衣服のスペシャリスト」を養成する学科です。卒業生は繊維・ファッション業界はもとより、教育・研究・マスコミ・金融などに幅広く進出しています。

家政経済学科は、経済学を基に家政学や社会科学の成果を取り入れ、身近な生活問題から地球環境問題まで幅広く学ぶ学科です。消費生活アドバイザーの資格取得を支援しており、多くの卒業生が専門家として活躍しています。

創設者の社会貢献の志を受け継ぐ「家政学部賞」

長い間、家事・裁縫などの花嫁修業としか考えられていなかった家政学を学問として確立し、理科教育、とくにそこで行われる実験・実習を

重視したのが、日本女子大学の創設者成瀬仁蔵でした。

成瀬は「実践倫理」の授業を週一度行い、卒業後も生涯にわたって学び社会に貢献する生き方をすることを学生に説きました。社会改革家としての成瀬の志は、日本女子大学の同窓会組織に受け継がれ、災害時の救援活動や女性のための生涯学習事業などを展開する礎となっています。

家政学部は、これまで様々な分野に多くのリーダー的人材を輩出し、社会に貢献してきましたが、こうした社会との接点をより強め、私たちの生活をより合理的で豊かなものとし、人類の福祉に広く貢献した個人、団体の活動を奨励するために設けたのが「家政学部賞」です。

児童学、食物学、住居学、被服学、家政経済学の各分野から一人(1団体)を選び、受賞者に講演を行ってもらうことで、本学部の学生は、自分たちの学んでいることが、社会と密接につながり、広く人類のために貢献する学問であることを知ります。

生活や暮らしを学ぶことで、広く社会に貢献できる家政学を、私たちといっしょにぜひ学んでみませんか。



石川教授が指導する初年次体験型授業「力と形」(住居学科)